

進路指導部通信

県立高等特別支援学校

進路指導部

2020. 4. 27 NO. 2

進路指導部通信第2号です。新型コロナウイルスの感染拡大防止のために臨時休業となって2か月が経とうとしています。臨時休業となった後も緊急事態宣言が発令されるなど終息に向かう兆しはなく、先の見えない日々が続きますが、自覚ある行動を心掛けたいものです。

今回は、本来ならば4月24日の現場実習説明会に先立って予定されておりました進路全体会の際にお話しさせていただくことにしていたものをこの通信でお伝えさせていただきます。お役立ていただければ幸いです。

（1）職業科の難しさ～進路方向の決定のあり方について～

よくご存じのように本校はまずは卒業時に一般就労することを目指す学校です。だからといって全員が自動的に一般就労に向かうものではありません。ある程度の「準備」ができてからだと思っています。職業科ではない、地域の特別支援学校では一般就労に向かわせるにあたっては「校内アセスメント」（一般就労に向かうにあたってその準備ができているかを検討するシステム）というものがあり、クリアしないと一般就労には向かわせない、その「見極め」を3年生になるにあたり行うということです。

この点において本校はそこまでの見極めは行っておりません。先述した地域の特別支援学校ではハローワークとの相談会に臨めるのは全員ではありません。ところが本校では当たり前のように全員が相談会に臨むことになっています。何をもちょう準備ができたか判断するのは難しいところです。「ニート」が社会問題にもなっている中で「働きたい」という意欲があることは評価すべきことだとも思います。すぐに答えは出ませんが「就職はゴールではなくスタート」という意識を持つことは大切だといえます。

（2）定着率について

本校では定着状況を計る一つの物差しとして卒業時に就職した卒業生が3年後その職場に留まっている割合を定着率として学校見学時等に配布される資料に掲載しております。今回は21期生が卒業後3年を終えることとなり卒業生数35名中、就職者29名で継続者27名、定着率93%と、こうした統計を始めて6年目にして最高の数字となりました。これもひとえに「働き続けることが大切」という意識の元で学校全体となって取り組んだ成果だと思っています。

（3）卒業生の就労先訪問での気づき

・会社での人間関係に適応できていないケース

本校では「就職は新たなスタート」と捉え「期限を切らないアフターフォロー」に取り組んでいます。多く（7～8割くらい）の所では「よくやっている」と褒めていただき中には「うちのエース」とまで言って頂くようなこともあり、鼻高々な気分で帰途に就くといった感じでした。ところが、中には「ちょっとこちらへ」と本人のいないところに案内されたり学校に電話がかかってきたりということもあります。

大抵は在学中の働く準備が不十分なまま就職して（させて）しまい、弱点が出るべくして出ており、やはり「職場での問題に不思議な問題なし」という感じがします。在学中の様子を思い起こせばそれほど驚いたことではないのですが「指示に従わない。挨拶もしないし、気に入らないことがあるとふてくされたり、ひいては逆ギレする」とまで言われ、そこまで悪くなっているのかと感ずることもあります。

こういった指摘は最近始まったことではありません。当初はこういった会社からの「SOS」を頂いて不安な気持ちで会社に行きました。ところが当の本人は会うなり「こんにちは。お久しぶりです」と在学中と変わらぬ爽やかな挨拶「仕事はどうか」と尋ねると、大なり小なり「楽しいです。頑張っています」といった答えが返って

きます。これには会社の方もびっくりされ恥ずかしいやら何やら、といった心境でした（ほぼ毎年このような光景に遭遇します）。

思うに、学校という所は「生徒と教師」と関係がはっきりしており、本人も身の置き所が定めやすいといえます。負の言動に対しては即座に教師の指導のてが入ります。ところが会社という所は「上司と部下」という関係はあっても、基本は「大人扱い」です。その都度、逐一指導の手が入ることはありません。職業実習では7名の担当職員が絶えず目を配っていますが、会社では基本「仕事は一人でするもの」です。さらに感じるのが療育手帳を使っての就職ということで、会社の対応が遠慮がちになってしまい（注意していいものどうか迷われることが多いように感じています）、負の言動がスルーされることです。そのため本人は「これでいいんだ」と「負の学習」をしてエスカレート。何とかしたいと思った時には時すでに遅し、です。ただ卒業生本人にとっては教師という存在は永久に不変で、結果会社の方にとっては同一人物とは思えない光景となるのでしょう。

高等特別は厳しい、という評価をよく耳にします。「働く」ということをしっかりと受け止め、良き社会人になって欲しいという願いの表れであると考えますが、ややもすれば生徒たちの判断基準が「怒られるから止める。そうでないと・・・」となっている感じもあり、今後の生徒への関わり方について考えてゆかねばならないと思っています。

・本人を取り巻く環境の変化

これは古い卒業生にみられるケースでそれまでできていたことができなくなる、できたとしても時間がかかり業務として成り立ちにくいという指摘がありました。

また、これも昨年度に始まったことではなく、個人差もありますが自閉的傾向の進行、老化が進んでいる（年齢と言動、容貌も含めて年齢と釣り合っていない）と感じる場面があります。

卒業生の職場訪問をしていて「孤独」であると感じることが多くあります。在学時と違って「人に揉まれる」ということが少なくなり、コミュニケーションの機会が減ることが関係していると感じます。最近では各地域で支援センターが主催する「在職者交流会」というのが実施されており参加している卒業生もいるようです。また、期生を越えて繋がっているケースもあります。形は色々ですが「繋がる」ということが大切だと思います。

・精神的に辛くなるケース

在学中は模範的な存在で就職後も順調に推移していたのですが、精神的に不調になり入社そのものが厳しくなるといった事例が何件かありました。それぞれに共通するのは「真面目に一生懸命」仕事をする、ということです。この姿勢は称賛されて然るべきところではありますが、話を聞いていて必要以上に責任感を背負い込みすぎている、と感じました。

こうなってくると自分ひとりの力で何とかしようと思っても難しい面があります。家族の方のサポート（医療、支援センターと繋がる）が大切になってきます。

（４）卒業生へのアンケートについて

仕事について（Aとても満足 Bまあまあ満足 C普通 Dやや不満 Eとても不満）

① 仕事の内容	A 39.8%	B 26.8%	C 29.9%	D 1.9%	E 1.6%
② 仕事のやりがい	A 39.7%	B 29.5%	C 25.3%	D 2.9%	E 2.6%
③ 職場の人間関係	A 28.0%	B 26.7%	C 34.1%	D 7.4%	E 3.8%
④ 給料	A 30.6%	B 25.6%	C 29.3%	D 8.6%	E 5.9%

生活について（A全く困らない Bあまり困らない C普通 D時々困る Eよく困る）

- | | | | | | |
|------------|---------|---------|---------|---------|--------|
| ① お金のこと | A 24.7% | B 23.4% | C 33.2% | D 13.3% | E 5.4% |
| ② 健康のこと | A 29.2% | B 18.9% | C 37.9% | D 10.6% | E 3.4% |
| ③ 人間（友人）関係 | A 29.8% | B 21.2% | C 35.9% | D 8.6% | E 4.5% |
| ④ 余暇(休日) | A 40.4% | B 20.1% | C 32.0% | D 5.3% | E 2.2% |
| ⑤ 家族のこと | A 35.0% | B 20.2% | C 33.4% | D 7.3% | E 4.1% |

「仕事について」では人間関係で苦勞しつつも自分の仕事にしっかりと向き合っている姿が、また「生活について」では余暇活動を始め充実した生活を送りつつも金銭面においては給料面と合わせて苦勞している姿が浮かんできます。最近では毎年最低賃金が引き上げられるなど改善されつつありますが、経済的自立という点では十分なものではないと思っています。そんな中、日々奮闘している姿が浮かんできます。

本校も今年度 25 周年と四半世紀を迎えます。卒業生の活躍する姿が良き伝統となっていると改めて感じました。

以上です。ここまでお読みいただきありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。